

## 少子高齢化・人口減少社会へ 現状維持が困難な時代 私たちは、どう立ち向かえばよいのでしょうか？



杉の子幼稚園（御代田町）

## 市町村合併は、21世紀への挑戦です 子どもや孫たちのために 今、その第一歩を踏み出す“決断”が必要です！

「現状のままでよい！合併すると現状と比べどんなデメリットがあるの？」  
合併をしなかった場合、「深刻な財源不足」が見込まれています  
極端な行政サービスの低下と住民負担の増加・・・これが現実になります

今、4市町村とそこに暮らす人々の「絆」による新しいまちづくりが必要です  
次世代のために“今を生きている私たち”が責任を持った決断をしなければなりません

40年前、先人達の合併という英断により現在の市町村が築かれ、  
今の私たちの暮らしがあります。

今度は、私たちが将来の子孫のために、「まちの絆」と「ひとの絆」による  
“新しいふるさと”を創るための決断を迫られています。

佐久の地に脈打つ先人達の志を受け継ぎ、21世紀への生き残りをかけて、  
勇気をもって第一歩を踏み出しましょう!

《合併しなかった場合》の財源不足額を見てみましょう

佐久市	なし
臼田町	年間 3億円（建設費：年間5億円を想定）
浅科村	年間 2億円（建設費：保育所・児童館以外年間3億円を想定）
御代田町	年間 1億円（建設費：ゴミ処理と中学校建設以外年間9千万円を想定）
合計	年間 6億円

御代田町は年間9千万円の建設費を想定していますが、これでは一般的にみて行政需要を満たすのは  
むずかしいため、臼田町と同程度の年間3億円の不足額が生じると仮定すると、3町村の合計不足額は  
年間 8億円となります。

一方、4市町村の合併による経費削減の効果は、年間19億円(一般財源ベース)と試算されています。

合併効果 19億円 > 3町村の財源不足 8億円

合併効果により、3町村の財源不足額をカバーすることができます。

## “合併のデメリット”という言葉をよく耳にしますが？

合併により、今までと「変わる」ことに対する不安・・・心配事です。

これは、合併に関係なく市町村が抱えている課題とも言えます。

4市町村の合併は、この心配事に対処できる最も有効な手段となります。

### Q 中心部だけがよくなり、周辺がさびれてしまうのでは？

市町村には、必ず中心部と周辺部があります。

しかし、周辺部という理由で中心部に比べて行政サービスが落ちているということはありません。

むしろ合併に関係なく「中心市街地の空洞化」ということが現在の課題の一つとなっています。

「住宅地域」「農村地域」「商業地域」「工業地域」・・・1つの市町村の中でもそれぞれの特性があります。

合併によるまちづくりは、地域の特性を活かすとともに、新市のバランスのとれた発展が図られるように進めていきます。

新市はどうでしょうか？

5つのゾーンに分け、各地域の個性を活かした一体化のあるまちづくりを進めます。(4ページ以降参照)

例えば...

- ・「環状線による交通網」の整備により、新市のどこでも高速交通網の恩恵を受けられます。
- ・新市の区域内に、「巡回バス」が走ります。
- ・高齢者の交通手段の確保が難しい地域には、「遠隔医療システム」を整備します。 等々

## Q 市役所が遠くなり、不便になってしまうのでは？

合併した場合、それまでの3町村の役場は、引き続き新市の支所として、市民サービスの直接窓口としての機能を担っていきます。

したがって、戸籍・税務関係の諸証明の発行など通常の行政サービスは、各支所（現在の役場）で今までと変わりなく受けられます。

4市町村は、生活圏が一体化しており、新市になると勤務地などに近いところで窓口サービスを受けられます。

新市の支所はどうなるのでしょうか？（\*第10回協議会に提案中）

- ・総合支所的な位置付けとし、相談・申請業務は原則として従前どおり支所で行います。
- ・総務、民生、保健福祉、経済、建設、教育など各部門の業務を行います。

さらには、情報通信ネットワークの整備により、近い将来、家に居ながらにしてオンラインで申請などが行えるようになり、地理的な距離は問題にならなくなるでしょう。

## Q サービスが低下したり、負担が高くなりませんか？

合併しなかった場合、深刻な財源不足により、行政サービスの低下と住民負担の増加は避けられません。4市町村の行政サービスは、それぞれの長い経過を踏まえて実施されており、制度の違いやサービスの格差が多く見られます。

例えば「高齢者福祉」のメニュー数で見ましょう

市町村名	佐久市	臼田町	浅科村	御代田町
メニュー数	66	41	39	30

協議会では、これらのメニューの1つひとつについて、新市のサービスの在り方を検討しています。個々のメニューでは、今までのサービスが見直される場合もありますが、個々のサービスを総合的に捉え、地域の福祉サービス全体について論議することが大切です。

また、市町村合併により事務処理方法などを合理化することによって、同じレベルのサービスをより少ない費用で行うことができるようになります。

## Q 人口が増えると住民の声が届きにくくなるのでは？

全国には、人口340万人の横浜市から人口200人の村が存在していますが、これらの市町村において、人口の「多い」「少ない」によって、住民の声の届き方が違うという議論があるのでしょうか。

4市町村が合併すると、上田市や飯田市と同じ規模の人口10万人になりますが、大切なことはどのような形で広報広聴活動をしていくのかという姿勢です。

新市はどうでしょうか？

お知らせ：広報紙（月2回）、公民館報（月1回）、フォトニュース、FM放送、ホームページ  
同報無線（臼田・浅科）オフトーク放送（御代田）佐久ケーブルテレビ等々

ご意見：市政懇談会、市政モニター、ホームページ、子ども議会等々

## Q 地域の歴史・文化・伝統が失われてしまうのでは？

4市町村が、それぞれ合併を経験してから、既に40年以上が経過しています。各地域の特色ある文化や伝統行事は、今も失われることなく引き継がれ、さらには、新しい文化も生まれています。

新市においても、地域の歴史・文化・伝統を新市の貴重な財産として後世に引き継ぐとともに、新たな文化を育てて行くことが大切です。

合併の際には、コミュニティ活動や地域文化の保存・伝承活動等を支援するための基金が合併特例債で設置できる優遇措置があります。

新市はどうでしょうか？

- ・文化人材育成基金の創設・川村吾蔵記念館整備（臼田）・歴史文化資料館整備（浅科・御代田）
- ・市民会館建設・歴史の里（五稜郭）整備・各地域のお祭りは、新市において実施します。

新市は【まちな絆】と【ひとの絆】を基本として、“新たな文化発祥の大地”を目指します。